

評価項目	具体的な方策	成果◎と課題▲	自己評価		改善策	学校関係者評価					
			項目別	総合		項目別	総合				
								項目別	総合		
1 学力向上	①3年間を見通した南高スタイルによる教科指導の充実 ・各学年に応じたきめ細かな指導体制の確立 ・授業充実と放課後活用での個に応じた指導	◎55分授業のあり方、放課後の時間の活用、南模試など、本校のスタイルや特色が定着 ◎演習量を補うため、朝補習、一日学習会、放課後セミナー(3年生のみ)を実施 ◎プロジェクトやタブレットなどICT機器整備が進み、授業における活用増 ◎休校期間中、クラッシーやZoomを用いたオンラインによる課題配信、ライブ解説を実施 ◎スクールカウンセラーの追加派遣等で、生徒や保護者の悩み解消に向けたサポート体制が充実 ▲勉学や部活等に集中できる、さらなる環境の整備 ▲移動コマのあり方 ▲自宅にネットワーク環境の無い生徒や端末の無い生徒への対応 ▲ICTを活用した授業改善のさらなる研究 ▲支援を要する生徒の情報提供や一層のサポート体制の構築	3	3	・新教育課程に向けて観点別評価やテストのあり方を研究しながら、本校生徒の実態にあわせた指導方法の確立 ・ウィズコロナの視点のもとゼロベースでの策定 ・大学入学共通テスト対策として、速読力、文章読解力、分析力をより育成する問題を作成 ・アンケートや学習時間調査の充実 ・ケース会、学年会、職員会議等の効果的な活用 ・いじめアンケートやリクエスト相談等を活用した迅速な対応 ・SCを含めた外部機関との密な連携	3.0	3.0				
	②難関校を目指す生徒への組織的な指導の充実 ・ハイレベル講座やチームによる指導の実施	◎希望者対象(1,2年生)に国数英においてハイレベルな演習(南セミナー)を実施。成果を確認する場として外部ハイレベル模試受験推奨 ◎医学科希望生対象に外部講師を招聘し、講演会、面接・口頭試問練習会を実施 ◎宮崎大学医学科地域枠集団討論および面接練習を運営委員(教職員)の協力のもと実践 【フロンティア科】 ◎2,3年次に教育課程を見直し探究コースを設置するとともに、小人数指導を実施 ▲3年間を見通した一貫性のある授業の在り方の構築			3			3	・早期からの難関大学志望者層の形成 ・職員チーム一丸となる雰囲気醸成 ・南セミナーの実施時間(30分間)拡大の検討 ・今年度の卒業生の進路状況等を分析し、授業の在り方について職員で共有したものを、組織的に指導実践 ・進路指導部やフロンティア科、学年団との連携強化と学級編成のあり方を工夫	3.0	3.1
	③基礎学力定着指導の徹底 ・自主学習の定着指導と部活動との両立支援	◎生徒の学力の実態把握を学力検討会で協議し、苦手教科克服のための方策を確認 ◎二者、三者面談でフィードバック ▲自学自習が出来る生徒、主体的な学習が出来る生徒の育成 ▲コロナ禍における学習時間の確保や学力の定着							3		
2 進路目標の達成	①進路指導体制の充実 ・国立大学AO・推薦入試制度の積極的な活用	◎生徒の特性を見極め、二者、三者面談等を通して的確な進路指導を実践 ◎小論文指導の一環として、新聞等を活用した資料を図書部にて準備 ◎読むべき書籍・新書等を図書館にて展示 ◎面接や入試説明会などネットワークを使ったイベントにも対応 ▲教員のスキルに頼り過ぎないよう、生徒の情報収集能力を高める指導が必要	3	3		・宮崎大、大分大、北九州大の対策、出願指導を検討 ・総合型選抜対策の改善 ・1・2年生の早い段階から小論文を意識させ、多くの書籍に触れる機会を創出	3.2				
	②外部の教育力の活用 ・産学官連携による探究活動等の推進	◎コンソーシアム組織及び連携大学・企業を活用した地域学・出前講座・動画配信講座を実施 ◎生徒による実践発表の機会として、鹏イノベーションコンテスト・課題研究発表大会を実施 ◎他の高校や大学等の外部機関との連携をオンラインで実施 ◎大学の先生の多大なる協力もあり年々研究のレベル上昇(フロンティア科探究活動は1班に大学側指導者1名つくというスタイル) ▲生徒による実践発表連携企業や大学の分野のアンバランス解消 ▲生徒の探究心をさらに高めるための工夫改善 ▲大学との関係をいかに継続していくかを整理 ▲オンライン会議のスキルの習得			3	3		・今年度サイエンス分野強化(理系企業増)。来年度は出前講座・企業訪問を計画し課題研究をさらに深化 ・誰が担当してもスムーズに探究活動を指導できるようなフロンティア科独自のマニュアルづくりの作成		3.2	3.3
	③特化した進路指導体制の確立 ・連携大学等への進学を目指す生徒の育成	◎宮崎大学との提携の下、ひむか人財育成セミナー、学部学科説明会を実施、テクノフェスタに参加						4	4		

・55分授業で確保した放課後時間を生徒の多様な実態に合わせて展開している。もっと効果的にするには、やはり自己教育力の更なる育成が必要と思われる。
・コロナ禍、新大学入学試験と激動の1年でしたが、先生方は難しい状況下で、できる限りの対応を取られたことと思います。
・大学進学実績だけが学校の評価ではないと思いますが、普通科校である以上、問われる部分だと思います。難関大学に絞らず広く設定すること、生徒の成績の伸びを数値化して示すなどして、南高で過ごした3年間の成果を示すことができれば、南高の存在意義をより明確にできるのではないのでしょうか。
・南高スタイルとは何なのか、全教職員が語んじて言えるまでに周知徹底して欲しい。
②、③に関して、授業研究こそが学力向上の近道だと思います。「生徒の学力として現れる教師の指導力(学力)」
・コロナ感染防止に対処しながらも、南高校「独自・ならでは」のスタイルの確立に工夫、尽力されたことが見て取れます。成果や結果は必ずついてくるとお思いますので見直しと改善を施しながら継続されることを望みます。
・難関校への進学を目指す大きな使命と役割を理解し期待しております。併せて、映えるステータスだけに着目せず、ベースを上げる(high standards)ことで相乗効果をもたらせばよろしいかと思っております。
・1年時からしっかりと計画性をもって教科指導を行っていると感じてきました。
・難関校を目指すことだけが高校の使命ではないと思います。宮崎の特質で難関校=成功した人間である、といった偏狭な価値観を子供たちに持たせてしまう危険性をはらんでいます。偏差値とは18年間生きてきた子供たちにたまたま貼られるラベルであり、そのことが彼らの人生にとって将来を決める最後の指標ではないはずですから。よって、難関校以外の選択肢も一人一人の学生に理解させるべきです。全員が医師になる必要はありません。全員が公務員になる必要もないのです。地方の片隅でも十分な使命感を持って誇りをもって社会に貢献して生きていく若者の根っこを育てていただきたいと思っております。
・この点については、十分な指導の徹底が見られると理解できました。

・きめ細かな指導体制が確立され、成果を上げていくと思う。生徒の実力の更なる向上を目指して「欲を持つ生徒」の育成を期待したい。探究活動など生徒自身の研究活動が「欲を持つ生徒」の意識に裏打ちされて進路目標も高まる。
・地元大学との連携など、新聞等でたびたび報道されるなど、地元には強い高校と言うイメージが定着しつつあると思います。地元大学への進学も多いようですが、加えて、進学先は地元でなくても将来地元に戻りたいと思う生徒を育てること=地域を担う人材の輩出に今後力を入れ続けてほしいです。
・外部の教育力の活用も大事ですが、内部に教育力がなければ意味がないと思います。
・内側の充実(対面指導、新聞・書籍など)と外側との協業(体験、講座、連携など)多面巻き込み材料を提供する取組は、応用力の育みになり素晴らしいと思います。全体観察だけにとらわれず、事・人の個々を見てレビューされたら如何でしょうか。
・それぞれの学生に合った体制を維持している。
・OB、OGの積極的な活用などが評価できる。

3 豊かな人間性の醸成	①部活動の更なる活性化 ・模範的な部活動の取組の成果の普及	◎部活動キャプテン会の実施 ◎コロナ対応のもと、新入部員歓迎交流会(試合)や卒業生に対する送別試合及び卒部式などの実施 ▲生活態度の改善と勉強との両立を果たすための工夫改善 ▲部員の役割の明確化とその達成状況の確認や軌道修正のためのミーティングの活性化	3	・部員同士のつながりや和を醸成する取り組みの工夫 ・部顧問とクラス担任、教科担任等との連携 ・ルール作りなど部員による運営全般へのさらなる関与	3.4	・部活動と学力向上が対立することなく展開できるような方策が工夫されている。キャリア教育が、生徒の学力向上に直結するようなプログラムの工夫を期待したい。生徒会活動もまさに自己教育力育成の重要なチャンスであると思う。 ・多くの部活動で大会が中止になるなど、目標設定の難しい1年であったが、当たり前のことの尊さを感じることのできた1年でもあったと思います。この経験が成長の糧になることを期待します。コロナ禍で何もできないから、何ができるかという思考になれるといいですね。 ・部活動は人間形成に絶対に必要な活動です。しかし、それによって学力が低下したら意味がありません。ここにこそ教師の指導力が求められると思います。「温かく、烈しく」 ・コロナ禍で日常が大きく変わり、部活動、生徒会活動においても非常に厳しく辛い一年だったと思います。この環境を乗り切ろうと部員同士、部顧問とクラス担任、教科担任の先生方との連携や、各委員会のベクトル合わせたあらゆる実践が、今後の発想力、課題解決力に生きてくれると確信します。 ・学生に「社会で働く意義」をしつかりと理解させる必要があります。 ・主体性を持たせることは難しいです。主体性とは自分が将来、どうやって生きるのかを理解させなければならぬからです。「勉強することが将来にどうつながるのか。そのことをなんとか理解させねば真の主体性は身につかない」と思います。
	②キャリア教育等による人間教育の推進 ・郷土愛に繋がる課題研究等への積極的な取組	◎1年生の地域学において、宮崎で活躍されている企業の方を招聘し、講話をしていただく場を設定(地元に対する認識が深まる機会) ▲生徒の自尊感情を高めるさらなる工夫 ▲自己理解や他者理解の機会を充実させ、相手の気持ちに寄り添える生徒を育成する手立て ▲2年次の課題研究につながる仕組みの構築	3	・今年度同様、宮崎を牽引している企業の方を招聘し、郷土に対して誇りが持てる取り組みを構築。様々な角度から宮崎について知る機会を設定 ・質の高いピア・サポートの実施や人権講演会の実施 ・生徒や職員の人権意識の向上を目指すさまざまな啓発活動	3.2 3.3	
	③生徒の主体性を重視した取組の推進 ・生徒会活動の更なる活性化 ・キャプテン会の取組の成果の普及	◎正式な投票箱使用での生徒役員選挙の実施 ◎受験生合格祈願お守りの制作 ◎全校放送による生徒会長の話 ◎交通安全委員による見回り活動 ◎コロナ休業明け、部活動生におけるボランティア清掃活動により学校環境改善 ◎マスク着用・自宅検温・石けんでの手洗い・換気・昼食時の対策等、生徒一人一人の自覚ある行動 ▲問題解決型の生徒会活動のさらなる取組 ▲日々の清掃活動を始めた環境美化作業に取り組むことのできる生徒の育成 ▲効果的な感染防止対策を選択し行動できる生徒の育成	3	・問題解決型の生徒会及び各種委員会活動の展開(特に、交通・容儀面) ・各行事での感染症対策をとった実施可能なプログラムの考案 ・委員会活動でポスター作成、通信等で新型コロナウイルスに関連するニュースなど情報を発信 ・『師弟同行』による清掃活動の充実と生徒美化委員会の活性化	3.2	
4 連携推進と職場環境改善	①広報活動の活性化	◎学校紹介DVDが好評(オープンスクール、学校説明会、授業公開など) ◎PTA広報紙『鵬』(生徒・保護者の活動紹介紙)が九州地区高P連広報紙コンクール優秀賞受賞 ◎公式ホームページの更新を定期的に行い、適切なタイミングで情報発信 ◎学校パンフレットにQRコードをつけ、ホームページと連携したパンフレットを作成 ▲ホームページの更なる改善	3	・中学生や保護者、地域、塾等のニーズを把握し、さらなる連携強化 ・ホームページの充実	3.4	
	②PTA、同窓会との連携協力推進	◎コロナの影響で活動が制限された(総会は書面決議)が、役員会を中心に丁寧に対応 ◎同窓会も様々な活動が中止になったが、鵬ドリカム講座など連携して実施 ◎同窓会、PTAの多大なバックアップ(鵬レベルアップ学習会、鵬合格セットなど) ▲コロナ禍において直接、保護者へ説明等を行う機会が減少	4	・創立60周年に向けて同窓会、PTAとの連絡調整を踏り、周年行事を通じての学校活性化を促進 ・コロナ終息後のPTA活動の安定に尽力 ・進路通信、講話を利用し補助、支援のありがたさを周知	3.6	
	③小中高連携の推進	◎本校生と赤江東中との連携、『寺子屋学習会』の開催 ▲コロナ禍において直接、小中学生と連携する機会が減少	2	・コロナ禍で実践できる取組の模索、検討	2.6	3.1
	④より「風通しの良い環境」実現 ・気軽に相談できる職場雰囲気醸成	◎「報告・連絡・相談」の徹底 ◎PTA役員にハラスメント等相談員の協力を得、風通しの良い環境を実現	3	・コミュニケーションを密に取る意識の共有	2.8	
	⑤「働き方改革」への意識醸成 ・業務削減の推進	◎55分授業のアンケートでは、働き方改革には良い効果あり ◎在宅勤務でオンラインを用いた生徒への指導や一部の校務を行うネットワーク環境を構築 ▲在宅勤務における校務情報や生徒の個人情報の取り扱いにルール作りが必要 ▲ペーパーレス化、押印先の一括化など、業務削減を図っても影響のない部分は積極的に推進	3	・コロナに対応した行事の精選、見直し ・例年通りを踏襲した業務の積極的な見直し	3.0	・コロナ禍で学校情報の交換が難しい中、PTA広報が工夫されており素晴らしい。やるべき課題は沢山あって、つい教員が悲壮感のもと、頑張り過ぎる傾向にある。学校全体が明るい雰囲気を作り、教師一人一人が生徒にカウンセリングマインドを持てば、あらゆる面に効果が発揮できると思う。休校等もあり、困難な場面も多かった中、進捗等も含め工夫された実践に、敬意を表す。 ・同窓会、PTAから得ている支援の成果をどう評価するかは正直難しいと思いますが、支援体制は他校と比較しても素晴らしいと思います。 ・小中高連携はコロナ禍で難しい状況ではありますが、地元から支持される高校となるには、連携は不可欠だと思います。小中学生が憧れる南高を目指して取り組みを進めてほしいです。 ・コロナ禍で、教職員の負担は確実に増えていると思いますが、伝統の意味を考え、学校行事の見直し等は進めてください。 ・働き方改革は時代の趨勢ですが、「教育は時間制」ではないこともまた事実だと思います。 ・南高校の広報活動や発信力は進学校の中でもピカ一だと思います。また、同窓会・PTAとの連携、学校とPTA活動の協力を物心両面から総合力が生み出ると評価いたします。スタイルの変革への追従、働き方改革など更に推進され、南高校の健康経営に繋げて下さい。 ・これらの項目に関しては、十分な意見を記載することが難しいです。しかし、宮崎南高校が将来に向けて十分な取り組みを行っていることは理解できています。

(注)4段階評価 … 4:期待以上 3:ほぼ期待どおり 2:やや期待を下回る 1:改善を要する